



ふなはし

議会だより

No.16/12月議会号

平成29年1月25日発行

平成28年10月14日

小中一貫教育先進地視察(岐阜県白川村「白川郷学園」)

自主性と郷土愛を育む



白川村では、小・中学校の連続性を大切に、9年間を見通した教育を行っています。議会では、このような先進地視察を参考にしながら、子どもたちにとって最良な教育環境の構築に努めます。



- 小中一貫教育先進地視察 1
- 12月定例会 一般質問 2～6
- 常任委員会・本会議の審議結果 7
- 決議 8
- 村議会傍聴のご案内 8

より良い村づくりのために!

意見

問

舟橋村の自然環境を守る取り組みについて問う

より安全・安心な環境整備に努める

杉田 雅史 議員



問 舟橋小学校では一昨年から「メダカの学校を探そう」をテーマに村内の調査を行ってきており、竹鼻地区の用水で絶滅危惧種である「トミヨ」が発見され、貴重な生き物や自然環境を守る取り組みがされてきた。

小学校ではメダカやトミヨがいる素敵な村だということを広く村民に知らせたいと、各地のいきいきサロンを訪問し調査報告を行ったり、用水のごみ拾いや泥上げを継続して行ったことにより、清流に来说と言われるカワセミの姿も見られるようになった。

子どもたちがこうした活動を続けたことにより、地域の方々も協力するようになり、用水わきにプランターを置いて花を飾ったり、用水沿いの草刈りを行う等、地域と一体となった活動が行われるようになった。その結果、本年8月には「第23回コカ・コーラ環境教育賞最優秀賞」等これま

河川の自然環境を守る子どもたち



竹鼻地区リバーサイド公園

トミヨ

で数多くの環境に関する賞を受賞し、また、2015年5月から3カ年に渡り「富山県野生の生き物ふれあいモデル校」として第1号の指定を受けている。

現在、子どもたちが一生懸命活動をしている竹鼻地区のリバーサイド公園には、トイレも水場もなく、夏の暑い時期には熱中症が心配される。

今後、舟橋村を担う子どもたちが村を愛し、美しい村を維持する活動を継続できるよう、

早急に環境を改善する必要があると思うが、村当局として、子どもたちの活動をどのように支えていくのか伺いたい。

答 教育長 校外学習の実施には、子どもたちの安全・安心は、最優先事項であることは言うまでもなく、また、トイレ、水場が施設として整っていれば安全、安心であることは、当然である。

しかしながら、トイレの設置には自治会の

判断、公園の管理・設置者の判断、防犯カメラ等の設置による安全性の確保、障害者用トイレの併設、清潔さを保つための日常清掃予算の確保等解決しなければいけない課題がたくさんある。

このようなことから、今すぐにトイレの設置は難しく、今後の検討課題とする。

問題解決のための方策としては、

①今までより時間を短縮して、実施回数を増やす

②近くの公民館等、公的な場所のトイレを借りる

③公用車を準備し子どもを搬送する

④簡易トイレを設置する

⑤緊急の場合や長時間にならざるを得ない時のために、前もって近隣の方にトイレ使用のお願いをし、

了解を取っておく等が考えられ、検討していきたい。

問 ウェブ方式による議会映像配信導入の意向について問う
答 前向きに検討していく

議員 田村 馨



問① 村議会の映像配信について、昨年の6月定例会に引き続き問う。

村議会の映像配信については、「開かれた議会」や、「議会の可視化」ということで、住民から実施を求める意見もある。

映像配信についてケーブルテレビ方式とウェブ（インターネット）方式とを比較した

場合、ウェブ方式は導入コストと年間コストも安価で済み、パソコンやスマートフォン等でも24時間、録画映像が視聴出来るようになる。コストもウェブ方式の場合、備品購入や設置・引込・屋内工事も含めて、ケーブルテレビ方式より安価に維持する事ができる。

広報手段は、広く選挙権の年齢が18歳以上に引き下げられた。「高校生にもスマートフォンで議会の様子を見てもらうよ…」といったような議論にならないものかとも感じる。

議会の様子をリアルタイムで住民に伝え、今以上に開かれた議会を実現するためにも、ウェブを活用した議会の映像配信を導入すべきと考えるがいかか。

答①総務課長 ウェブ方式による議会映像配信は、住民に議会を知っていただく選択肢として、また若い方にも興味を持っていただける有効な手段としても、導入を検討すべきと考えている。

今後、いくつかの配信方法を調査研究し、費用対効果の面を含めた具体的な複数の実施案を議会へ提示する。導入にあたっては議会として導入方針の決定が必要になるので、今後とも議会と相談しながら導入を検討していきたい。



霊園・納骨堂の建設等について

問② 現在、全国的な少子化等により、子どもや孫によるお墓の維持が困難になってきており、村内においても霊園・納骨堂の建設等の必要性が団地に住む方々を中心に高まっている。これまでは自分の家の墓や納骨堂を持つということが一般的であったが、昨今、少子化や核家族化など、時代の流れとともに墓や埋葬方法についても、家族意識や宗教観などに変化が表れてきている。

また、経済的に墓を持つことができない、先祖代々の墓を継承し維持管理することができない等といった話も聞く。
このような状況を考慮し、合同霊園や納骨堂等の建設を検討すべきと考えるがいかか。

答②生活環境課長 今後、団地の子どもたちが大人になれば、故郷が舟橋村ということで改葬を希望される場合もあり、葬儀・供養のあり方が多様化してきている現実から、「埋葬」という形式にこだわらない方が増えてくる可能性もある。

一方、本村の墓地等の設置基準は、「舟橋村墓地、納骨堂又は火葬場の経営の許可等に関する条例」において、公衆衛生やその公共の福祉の見地から支障がない場合で、河川等から50m以上、もしくは、国道、県道、鉄道、住宅、学校等から100m以上離れていることに加え、隣接する村民の同意を規定している。
本村は、小さい面積に約3000人が住んでいるベッドタウンであり、建設可能な場所は限られている。さらに住環境に与える影響を考慮すると、霊園・納骨堂の建設は困難で

あると考えている。
しかし、本村に隣接する上市町や立山町では、公営の墓地が整備されており、いずれも町民以外の方でも使用料は割高にはなるが、供養は可能である。また上市町では、合葬墓に1柱単位での供養も可能であるから、改葬等を希望される方には、近隣施設での検討をお願いしたい。



合葬墓（上市町墓地公園）



問 ねんりんピックへの今後の取り組みを問う

答 実行委員会を立ち上げ、対応していく

石 英 前 原 議 員



問 平成30年11月に、第31回全国健康福祉祭とやま大会（ねんりんピック）が開催されるが、選手だけでなく、それに係るすべての皆さんが、目標を持って取り組むことは生きがいの創出にもつながると考える。

次の4点について問う。

①本村では上市町と共

- 催で囲碁競技が開催される。大会まで2年を切っているが、役場庁内及び実行委員会等の体制についての考えは？
- ②大会をより充実させるための歓迎イベントや、全国から訪れる選手や関係者へのおもてなしなど、積極的に行っていたきたいが、その構想は？
- ③大会の主体である高齢者の皆様が元気でいきいきと活躍される姿を見ていただくことによって、「健康日本一」を目指す舟橋村の取り組みを全国に発信しPRできる絶好のチャンスと考えるが、今後どのようにして機運を高めていくのか？
- ④大会では他にも麻雀等多くの競技が県

内各所で開催されるが、村内からこの大会への参加を目指している個人や団体等があれば、村としても支援や周知を行う必要があると考えるが、その考えは？

答 生活環境課長

本村では、平成30年11月4日・5日の2日間、上市町と共催で囲碁大会を開催する予定で、会場は、上市町丸山総合体育館と舟橋会館を予定



- している。元気な高齢者が活躍する「生涯現役社会」の実現を目指し、「健康長寿」延伸への気運を高める大会になるよう取り組む。
- ①開催体制は、来年度に実行委員会の立ち上げや関係機関との連絡調整を行い、受け入れ体制を整備したい。
- ②また、全国からの多数の来場者をおもてなしする受け入れ体制の整備が必要であり、そのために、本年度の開催県である長崎県へ10月15日から18日まで、村職員を2名派遣し、競技会場や運営方法について視察を行ってきた。
- ③ねんりんピックでは、競技だけでなく、健康

関連のイベントもあわせて開催されていることから、村内の各種団体とも連携し、健康づくり教室や特産品のPR等について検討していきたい。

- ④また、大会時には、県内各所で各種スポーツ競技や健康麻雀等の文化交流大会も開催される。村内には様々な活動をしている個人や団体があることから、多くの方に参加いただけるよう、種目ごとの日時、場所、参加方法等を広報紙やホームページで周知していきたい。

人事評価制度及び職員研修について問う

答 副村長

人事評価制度は一人ひとりを多面的に診断し、人材育成・能力開発につなげるために2種類の評価で構成している。一つは仕事の成果面

を振り返る「業績評価」で、もう一つは能力、態度や行動面を振り返る「能力評価」である。「業績評価」は、業務の目標管理を通して行っており、その業務の成果が出るようにどれだけ目標を達成できたか、アプローチの仕方やプロセスはどうであったかを主眼に評価を行う。

「能力評価」は、「課長」「主任」等の職階ごとに求められている態度・行動がとれていたか、能力は十分に発揮したかを評価する。

いずれも上司と部下との面談によって行われ、評価結果は本人に開示される。

人事評価制度で一番重要なことは、いかに公平で正確な評価ができるかである。

そのためにも上司と部下の面談では、互いに納得できるように十二分に話し合いをしており、時機に応じた面談等きめ細かな対応をし

ていく。また、2月までは評価者・被評価者研修を実施し正確で納得できる評価を目指し、改善とレベルアップを図る予定である。人事評価制度は、評価によって職員をグループ分けするものではなく、職員の成長を促す人材育成制度だと理解されるよう取り組みをしていかなければならないと考えている。

また、職員研修は、

これまで同様に適宜必要な研修を受講する体制をとっている。人事評価制度の実施、職員研修の取り組みは、いかにして住民サービスの質をあげていくかにつきる。人材育成は一朝一夕にはいかない。職員には、それぞれ様々な機会を通じて自己啓発に努めると共に、地域社会の一員として活動するように求めている。

ラスト「エコリンク」・ブレイク

「えっ!?後2年で終わったら、僕、滑れないじゃん」

一抹の寂しいお知らせポスターが、随所に貼ってある。よくよく見ると「ラスト2回エコリンク」と書いてある。

「僕、滑れないじゃん」と言っているのは、幼い僕。

早速エコリンクに行つて、スケート場を眺めてみる。子どもがカープでものの見事に転倒。しばらくは起きない。はにかしいのか周りを「キョロキョロ」

しかし、転んでは起きまた滑る。甲高い笑い声。いつもの光景なのか!!

舟橋村を引き継ぐ未来の子どもたちよ! 思わず転んで、また挑戦して転んで。「アイトタア」も時にはよしではないか? (エコリンクおじさん)



問 答

舟橋村の一貫教育の方向と学力向上の理念を問う

豊かな心を学ぶ・夢や希望に向かって努力する子どもを育てる

秋 弘 議員

森



ある。

目標は、心身の発達に応じて、義務教育として行われる普通教育について、基礎的なものから一貫して施すことであり、9年間を修業年限としている。

では、一貫教育はなぜ必要か?

問 一貫教育の制度は、学校教育法等の一部が改正され、学校制度の多様化及び弾力化を推進するために、小学校・中学校までの義務教育を一貫して行う「義務教育学校」を新たに学校の種類として規定したことであり、国公私立いずれも設置が可能となったもので

一つは、いわゆる「中一ギャップ」を解消する。二つ目には、教職員間の相互理解を促進することによる教育効果の向上。三つ目に少子化の進展や地域社会における共同体意識の低下等によるマイナス要因を減少させ、小学生の中学校進学に対する不安感を減少させることを目指している。

また、小中一貫教育には、さまざまなタイプがあり、小学校と中学校で敷地が別々で、教員や児童生徒が移動して学習する連携型、小学校の高学年が児童の全部または一部が中学校の校舎で学校生活を送る併用型、同じ敷地の中で小学校1年生から中学校3年生までが共に学校生活を送る一体型がある。

さて、舟橋村の小中一貫教育に向けた、具体的な取り組みとしては、「推進協議会、教育推進計画の策定、研修主題を小中学校が共有し、合同研修会の開催、体系的に指導する小中一貫教育カリキュラム試案の作成、小中一貫教育の推進をするための評価方法等、スケジュールに基づいて実施する。」とあり、その取組は、「舟橋村小中一貫教育について」で述べている。

先日、小中一貫教育を進める岐阜県白川村「白川郷学園」を視察。学園における9年間の学習基本理念は、発達段階に応じた学習能力の徹底。「教える力」「考える力」の指導内容に応じた調和を図り、「週末の時間」を確保し学習指導に生かす。大事なことは、得意分野で伸びる子には、より発展的な学習を、苦手分野でつまづいている子には、より丁寧に繰り返し指導を、いわゆる「きめ細やかな指導」の展開をしている。

一貫教育



舟橋中学校



舟橋小学校

◎教育長 舟橋村では、

これまで、小中一校ずつという特性を生かし、教職員、教育関係者全員で子どもたちを育てることを基本目標とし小中連携教育を進めてきた。

例を挙げると、児童・生徒理解のための小中学校の教職員の交流、学習意欲を育てるための家庭学習の充実、生きた教育や体験学習のための外部講師の活用等である。

そのような中、平成28年度から文部科学省の小中一貫教育の推進事業の委託を受け、学力向上に視点を当てた教職員の指導力の向上、資質の向上を目指すことや、小中学校9年間の系統的、発展的な指導計画の作成、部活動体験、教科担任制の実施、そして小中学校教職員の乗り入れ授業など、研究を重ね小中一貫教育をさらに推進し具体的に指導実践しているところである。

る。

また、この取り組みの成果として

①小中学校の教職員が、目指す子ども像や授業像を共有してより良い授業づくりにつながる事ができる。

②小中の交流活動により、子どもたちに見通しと安心感をもたせ「中1ギャップ」を軽減できる。

③9年間の継続したカリキュラムにより、小学校の教育を生かした中学校でのきめ細かい授業実践が可能になる。また「つながり」を重視した指導を実施することにより、抵抗なく進学でき、学習意欲が高まる。

小中一貫教育は特別なことをするのではなく、「大切な宝」である子どもたちを、豊かな心と学ぶ意欲をもち、夢や希望に向かって、自ら努

力する子どもに育てあげるという教育理念のもと、実践すべき手段・方法である。

また、現在の舟橋小中学校の施設分離型のまま、今の舟橋村の子どもたちに身につけさせたい学力、育てたい能力を常に意識し、研究・模索しながら、柔軟性をもちつつ、この取り組みを継続的に充実、発展させていきたい。



岐阜県白川村「白川郷学園」教育方針

どうなる!?

「子育て共助のまちづくりモデル事業」エリア



今後とも議会、村民、保護者、教育関係者等、多くの方々から幅広く意見をいただきながら、9年間の義務教育が一貫性のある充実したものとなるよう努力していきたい。



整備が進む京坪川河川公園 (平成 29 年 7 月完成予定の芝生広場)

12月定例会常任委員会（主な審議）

産業厚生常任委員会

総務教育常任委員会

村の地方創生事業について問う

問 一般会計補正予算に計上されている地方創生関連事業（事業費4000万円）の内容は？

答 「子育て共助のまちづくりモデル事業」として、5年間、国の地方創生推進交付金を受けて事業実施する。今年度は2000万円を受け、次の2事業を実施する。

- ① 地域課題解決へのビッグデータ（※1）の戦略的活用事業
 - ・ 来年度以降、これにより得られたコミュニティ形成・活性化のシステムや運営ノウハウ等の成果を、順次他事業に展開していくことで、幅広い世代の交流や人材発掘・育成を効率的に進めるとともに、事業全体の活性化を図る。利用者がコ
- ② PPP／PFI（※2）可能性検討事業（事業費1000万円）を実施する。
 - ・ 住宅地、保育園、公園、舟橋会館等の施設を有機的に結びつけ、まちづくりの担い手となる組織による一体的な運営管理を検討する。

新保育園の事業計画は

問 一般会計補正予算に計上されている保育園造成工事費の内容は？

答 村テニスコート西側に建設が予定されている新保育園の用地の

造成を行う。現況が田であるため、平成29年3月末までに、村が地盛り等の工事を行う。その後、保育園を運営する社会福祉法人富山YMCA福祉会が平成30年4月の供用開始に向け、建物や駐車場を建設する。



12月定例会 ― 本会議の審議結果 ―

本会議において、次の議案を全会一致で可決しました。

- 舟橋村の職員の給与に関する条例等の一部を改正する条例制定の件
 - ・ 人事院及び県人事委員会の勧告に伴う、一般職の給与及び勤勉手当の引上げ、特別職（村長、副村長及び教育長）及び村議会議員の期末手当の支給月数の引上げ
- 舟橋村農業委員会の委員の定数条例制定の件
 - ・ 法改正により、農業委員会の選任がこれまでの選挙制から村長の任命制に変わることに伴い、現行と同数の12人の定数を定める
- 平成28年度舟橋村一般会計補正予算
 - ・ 地方創生交付金事業
 - ・ 地域課題解決へのビッグデータの戦略的活用事業 3000万円
 - ・ PPP／PFI（公民連携等）可能性検討事業 1000万円
 - ・ 新保育園造成用地工事費 3915万円
- 平成28年度舟橋村簡易水道事業特別会計補正予算
 - ・ 村道東芦原南部線配水管布設工事 856万円
- 地方議会議員の厚生年金制度への加入を求める意見書
- 高齢運転者による交通事故の抑止に関する決議（次ページに掲載）

用語の解説

※1 ビッグデータ

インターネットの普及やコンピュータ等が仕事や生活に広く利用されることにより、日々記録される多数の様々なデジタルデータの集合のこと

※2 PPP／PFI

PPPとは公民が連携して公共サービスの提供を行うスキーム。PFIはPPPの代表的手法の一つで、公共施設の設計、建設、維持管理及び運営に、民間の資金とノウハウを活用し、公共サービスの提供を民間主導で行うこと

12月定例会では、次のとおり決議が可決されました。

【高齢運転者による交通死亡事故の抑止に関する決議】

10月28日、横浜市で発生した小学生男児の交通死亡事故を初め、11月10日には栃木県下野市の病院で乗用車がバス停に突っ込み3人が死傷、12日には東京都立川市の病院で乗用車が歩道に乗り上げる事故により2人が死亡するという高齢運転者による死亡事故が相次いで発生している。こうした状況を踏まえ、舟橋村議会では、村内を走る県道、村道及び農道の安全確認及び安全対策を推進するとともに、自動車の運転に不安を感じる高齢者の移動手段の確保など、社会全体で高齢者の生活を支える体制の整備を進めていく必要性を認識している。

舟橋村当局においては、舟橋村民及び児童生徒の安全確保に向け、村内の道路の点検及び安全施設の設置などの取り組みを行ってきたところであるが、高齢運転者による死亡事故の増加を受け、多様な対策への取り組みが必要であると考えている。

全国で多発する痛ましい交通事故の現状を踏まえ、舟橋村議会として、次の事項について舟橋村当局の対応を求めるものである。

- 1 自動車の運転に不安を感じる高齢者に対し運転免許証の返納を推奨すること
- 2 運転免許自主返納者に対する支援を継続して実施すること
- 3 児童生徒の通学路の安全点検を定期的実施すること
- 4 ドライバーに安全運転の意識を高めるための啓蒙活動を実施すること
- 5 高齢者及び児童生徒に対する交通安全教室を実施すること
- 6 夜間走行時のヘッドライトのハイビーム走行を普及啓発すること
- 7 高速道路等の逆走防止のための普及啓発を実施すること
- 8 明るい服の着用や反射材の使用を積極的に呼びかけること



交通安全教室（舟橋小学校）

「決議」とは？

村政や村民に広く関わる事柄について、村議会の考えを対外的に表明すること

65歳以上の運転者のみなさまへ

（「高齢者運転免許自主返納者生活支援金」制度）

65歳以上の方で運転免許証を自主返納された方は、村から生活支援金（月額4000円）を5年間受給できます。

詳しくは役場生活環境課（電話：076-464-1121）へお問い合わせください。



傍聴席

村議会を傍聴しませんか！

本会議はいつでも傍聴できます。（傍聴席30席）
議場は村政の一端を知る絶好の場です。村政の実態を知るために、また、住民の皆様が選んだ議員が何を今どのように質疑をし、審議をしているか知るためにも、ぜひ議会の傍聴にお出かけください。

次回の定例会は3月上旬開催予定です。（日程は広報ふなはし3月号及び村ホームページに掲載します）

あとうがき

少しの段差でもつまずく、若き頃は、そんなでもなかったのに！
しかし、安心する事態に遭遇した。
某日、歩道を歩く。前を20代の女性が歩いている。

何気なく歩いていると、前の女性がつまずいたのか突然よろよろ。
「おっと」と転びそうになったが無事。

なぜそうなったのか。通りを見てみると、わずか1センチ程度の段差。
あーあ。若き女性でもつまずくのか。

そうは言っておれまい。元氣を出して今年も頑張っている。

舟橋村のビジョンを追い求めながら！
（森・記）

議会広報特別委員会

委員長	森弘秋
副委員長	竹島貴行
委員	前原英石
委員	杉田雅史

議会・議会だよりについて、みなさまのご意見・ご感想をお寄せください。